

令和5年度法務省委託事業
「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」
企画概要

- 1 日 時： 令和5年●月●日（土）※予定
午後1時30分～午後3時30分（120分）
※予定
- 2 形 式： オンライン（リアルタイム／アーカイブ）配信
※配信会場は、東京都もしくは熊本県を想定
- 3 目 的： ハンセン病問題に関する正しい知識と理解は、いまだ十分とはいえず、ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見・差別は、今なお社会に根深く残っている。
そこで、ハンセン病問題に関わってこられた方々や当事者の方々の声を聴き、ハンセン病問題を決して風化させることなく、その正しい知識と理解を次の世代を担う人々に伝えていくとともに、同じ過ちを繰り返すことなく、偏見・差別のない社会を実現するためにはどうしたらよいか、親子で考えていくためのシンポジウムを開催する。
- 4 対象者： 一般市民（事前申込不要、参加無料）
- 5 主 催： 法務省、厚生労働省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会、●●地方法務局、●●人権擁護委員連合会、公益財団法人人権教育啓発推進センター
- 6 後 援： 中小企業庁、全国ハンセン病療養所入所者協議会、ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟全国原告団協議会、ハンセン病家族訴訟原告団、●●県、●●県教育委員会、●●市、●●市教育委員会、●●県市長会、●●県町村会、NHK●●放送局、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、日本財団（順不同、予定）

7 内 容（東京会場）：※予定

【第1部】

●主催者挨拶（5分）

●動画上映（5～10分）

候補1 人権啓発動画「ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～」

https://youtu.be/gPH5b_CDwto?t=1669

※00分～3分00秒、27分49秒～33分46秒 金さんの解説

※約5分

※もしくは下記アニメーション部分のいずれか

森和男さんのエピソード（令和2年度シンポジウムで上映）

林力さんのエピソード（令和3年度シンポジウムで上映）

志村康さんのエピソード（令和4年度シンポジウムで上映）

候補2 ハンセン病問題とその歴史～差別・偏見のない社会を目指して～

<https://www.youtube.com/watch?v=2PKq3RQUXm0>

※企画 岡山県

※約8分

●基調講演（30～40分）

内容：ハンセン病問題に関する歴史や療養所について（各30分）

候補： 多磨全生園のハンセン病元患者※多磨全生園の自治会に相談

候補： 内田博文（人権擁護委員連合会会長、ハンセン病資料館館長）

<https://www.nhdm.jp/introduction/message/>

予備候補 金貴粉（ハンセン病資料館学芸員）

<https://researchmap.jp/kwiboonkim>

●パネルディスカッション（50分）

内容：中学生、高校生 or 大学生にはハンセン病問題に関する取組を発表してもらい、教員についてはハンセン病問題に関する教育に関する取組や今後の展望について話してもらう。

〔パネリスト〕3名を想定

※詳細別添1

中学生1名（10分）

高校生 or 大学院生1名（15分）

教員1名（25分）

〔コメンテーター〕

基調講演に登壇する多磨全生園のハンセン病元患者

〔コーディネーター〕

内田博文（人権擁護委員連合会会長、ハンセン病資料館館長）

●トークショー（30分）

※パネルディスカッションに登壇者も含めて

内容：中学生、高校生に人気がありつつ人権問題に関心が高いと思われる著名人に登壇を依頼し、一緒にハンセン病について学ぶ。

令和5年度法務省委託事業「共生社会と人権に関するシンポジウム
～今、企業に求められること～」

企画概要

- 1 日 時： 令和6年2月●日（●）
午後1時30分～午後4時（予定）
- 2 形 式： オンライン（リアルタイム／アーカイブ）配信
会場：コモレ四ツ谷タワーコンファレンス Room F
（東京都新宿区四谷1-6-1 コモレ四谷 四谷タワー3階）
※ アーカイブ配信期間は1年間
※ 予定
- 3 目 的： 平成27年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）においては、「誰一人取り残さない」社会の実現が掲げられており、「人権尊重」がその大きな柱となっている。
近年の経済活動のグローバル化の進展に伴い、企業活動が人権に及ぼす影響がより一層拡大している中、SDGsの達成に向けて企業が果たすべき役割は極めて大きいものと言える。
そこで、「共生社会」、「心のバリアフリー」をテーマに、SDGsで掲げられた「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、今、企業に何が求められているのかを考えることを目的とし、本シンポジウムを開催する。
- 4 対象者： 一般市民（事前申込不要／参加無料）
- 5 主 催： 法務省／全国人権擁護委員連合会／東京法務局／東京都人権擁護委員連合会／公益財団法人人権教育啓発推進センター（予定）
- 6 後 援： 経済産業省／中小企業庁／国連広報センター／（一社）日本経済団体連合会／（独）中小企業基盤整備機構／東京都／特別区長会／東京都市長会／東京都町村会／（一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン／日本商工会議所／東京商工会議所／東京都商工会連合会／東京都中小企業団体中央会／
（公財）東京都中小企業振興公社／（一社）東京経営者協会／東京人権啓発企業連絡会（順不同／予定）

7 内 容：（予定） ※150分

（1）開会挨拶（5分）

（2）基調講演（30分）

【テーマ】

「共生社会の実現に向けて」～今、企業に求められること～

※予定

（3）My じんけん宣言の紹介（5分）

※予定

（4）基調報告（各報告者20分、コーディネーター5分、計65分）

【テーマ】

「企業における心のバリアフリー」～その課題と問題解決に向けた取組について～

※予定

【基調報告者①】

【基調報告者②】

【基調報告者③】

【コーディネーター】

基調講演の講演者

（5）休憩（10分）

（6）パネルディスカッション（質疑応答）（30分）

【パネリスト及びコーディネーター】

「（4）基調報告」の登壇者

（7）閉会挨拶（5分）

※ 諸事情により、内容が変更となる場合もある。

8 広報関係：

多くの国民に本シンポジウムの内容に触れてもらうために、下記のような広報等を実施する。（予定）

（1）事前広報

チラシの作成・配布、インターネット広告の実施、法務省ウェブサイト等に案内の掲載等

（2）事後広報

採録記事の作成・掲載、人権チャンネルでのアーカイブ配信の実施等